

# 様式 2

## 第 9 回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第 9 回安曇野市行政改革推進委員会
2	日 時	平成28年 1 月 28 日 午後 3 時から午後 5 時 40 分まで
3	会 場	安曇野市本庁舎 3 階 共用会議室 306
4	出席者	降旗会長、伊藤副会長、保尊委員、那須委員、望月委員、丸山恭弘委員、丸山庄一委員、降旗幸子委員、中山委員、山崎委員、藤原委員
5	市側出席者	藤松総務部長、花村福祉部長、鎌崎行政管理課長、望月行政管理課長補佐、丸山行政担当係長、等々力子ども支援課長、水谷子ども支援課長補佐、黒岩保育担当係長、内川主任 西村職員課長、金井財政課長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	10 人 記者 2 人
8	会議概要作成年月日	平成28年 2 月 8 日

### 協 議 事 項 等

#### 1 会議の概要

- (1) 開 会 (伊藤副会長)
- (2) あいさつ (降旗会長)
- (3) 会議事項
  - ① 前回委員会における質問・要望について(保育園関係以外)
  - ② 前回委員会における質問・要望について(保育園関係)
  - ③ 保育園の運営のあり方に関する答申へ向けた進め方について
- (4) その他
- (5) 閉 会 (伊藤副会長)

#### 2 審議概要

- (1) 前回委員会における質問・要望について(保育園関係以外)(事務局より説明)
  - ・自治基本条例のアンケート結果について
  - ・個人の名前が入った地図を市から提供してほしいという要望について説明。
- (2) 前回委員会における質問・要望について(保育園関係)

(事務局) 前回の議論の中で、「民営化ありき」の議論をすればいいのか、今後どのような形で内容を議論していくか、また子ども・子育て支援計画との関係はどうなっているか、それから答申の時期についてどのように考えるのか、という点についてご質問があった。最初に説明をさせていただいて、ご意見をいただきたい。

(事務局) 職員の発言の訂正をお願いしたい。混乱を招くような発言をいたしまして誠に申し訳ない。会長と副会長には訂正をさせて頂いたが、本日改めて委員の皆様へ諮問に当たっての市の考え方は民営化ありきでお伺いしている。ただし、保護者や関係者の皆様の理解を得るにはかなり時間がかかると思われるので、この先答申を基に市の考え方をまとめていくつもりでいる。私も含めて、担当者レベルでは、民営化についての検討が始まったという考えは変わらないが、やはり、将来的には民営化も考えて行きたいという事で諮問させて頂いた。

2 点目だが、公立保育園のあり方についても答申が出た後に、今後どうするのかまとめなければいけないと思っている。現時点においてははっきりしたビジョンを持ってないので、それも報告させて頂く。もう 1 点、子ども・子育て支援事業計画の中に一切触れていないというご指摘頂いた。この計画については法律が変わっており、それぞれのサービスについての量の確保、どの位のサービスを提供したら良いかという物で、民営化なのか公立なのかという事は最初から検討もしてないし、盛り込んでいない。もし具体的に進めることになれば、改めて民営化についての何らかの目標あるいは考え方をまとめていきたいと思っている。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2 週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

(事務局) 答申の時期の考え方についてだが、まず委員の皆さんに現状の課題について理解を深めて頂いた後、意見交換等審議を重ね、概ね6月位に答申を頂ければと考えている。

○民営化にも色々な手法があると思うが、幅広い意味での民営化という諮問で良いのか。

→民営化の方法については公設民営又は民設民営という方法もあると思うので、幅広い方式で考えて頂きたい。実際に安曇野という地域にあった民営化とはどのようなものかという事で答申を頂ければ大変ありがたいと思う。

○議論に入っていくにあたって、民営化という事について安曇野市として議題を上げた事自体は評価して良いと思う。厳しい財政が続いている状況下で民営化に進んでいかざるを得ないだろうが、民営化イコール財政負担が減るという事も必ずしも言えないのではないかなと思う。市民の皆さんの声を聞いたり、他県の民営化の進んでいる所の状況等の情報を得て、本当に出来るかどうか様々な角度からの情報をテーブルの上に乗せて、良い点、悪い点等の中から方向性を探っていく事がベターではないか。

○事業をできるだけアウトソーシングしている事は評価できる。しかし、アウトソーシングの中で、一般的な物に民間の活力を導入することは非常に良い事だと思うが、保育園に導入することがはたして本当に良いのかどうかという事はこれからの大きな課題になると思う。民営化した場合それぞれの企業は赤字で経営する事は不可能なので、市の助成も含めながら収支がプラスにならないとおそらくやっていけない、引き受けた企業は赤字にならないために職員の待遇面でカットする部分もでるし、施設面においてもマイナスになる面があるのではないかな。財政や職員数等の数字以外の点で、例えば各保育園の園長クラスを呼んで意見を聴取等しながら、教育という見えない部分の効果を深く考えていかなければならないと思う。

<資料説明>

<休憩>

○これから5年間の将来予測がどうなるのかという点が重要だと思う。将来予測に応じて話を持っていったら良いのではないかな。また、安曇野市は待機児童がいるのかいないのか、その2点について聞きたい。

→待機児童については、基本的にはいない。ただし、国が示している待機児童というのは、市全体の保育園で収容できる人数に対してということになるが、希望した園に入れられないという状況はある。

→5年後の予測について、昨年秋に市が出した総合計画の人口ビジョンでは、0歳から4歳の人口について今後何も対策しなければ、現在3,661人の人口が2020年には3,185人と500人くらい減る見込である。ただし、子どもを授けられない方等に対する補助や出生率の改善に努めれば、2020年には、3,594人になると見込んでいる。今の状態で持っていければ良いが、人口減少時代に入っているので、仮に5年後を作っても正直言って参考程度に留まるというところである。市の人口ビジョンによると、2040年には何にも手を加えなければ、0歳から4歳が3,661人が2,527人とかなり減少する。移住、定住の政策を実施したり、子どもを産む数を増やすというアクションを市がしっかりすれば、逆に3,898人と増えるという見込みも出ている。今5年後についてしっかり回答ができないので、先に民間に委託した場合はいくらかかるのかということをお示ししたいと思う。

○今、自治体は人口減少社会でいろいろとプランを作る時に苦慮していると思う。予測の数字で構築できるものと、現状の様子で作っていかなければならないというものがあると思う。

○最悪のシナリオ、中間のシナリオ、かなり期待を持ったシナリオと3つくらいを作るべきではないかなと思う。

○人口の問題については、当面減少動態ということを承知しておいていただきたい。平成27年の国勢調査の速報値が出ており、19市の中で安曇野市は減少率の低い方から6番目である。しかしこの5年間で1,182人減っており、4年連続で歯止めがかからない人口減少が続いている。特に問題なのが、0歳から14歳児の年少人口を見ると、19市中14位である。保育の体制をどうするかというのは、人口動態は避けて通れないと思う。保育園はみんな待機児童がいて大変だと言われるが、地方と都市圏では状況が全く違う。一番違う点は、社会福祉法人だけでなく株式会社まで間口が広がり、参入した一部の会社が途中でリタイアしてしまい、そこに預けていた子どもたちはどうなるのか、ということが社会問題となっている。そうすると民間に任せておくと大変だという話になるかもしれないが、公立から転園してきた子どもを民間の保育園等が引き受けているところもある。必ずしも民間保育園がだめだということにもならないように判断してもらわないと、この問題の本筋が見えてこないと思う。

○確かに、民間に委ねていいのかというのは疑問だと思う。お金のことだけでなく、子どもを育てるという運営の方法というのは大変重要なソフト面である。園長どうしても良いと思うが、先進地の保育園等にいろいろな交流を持つと、様々な長所短所がわかると思う。運営や収支も大切だとは思いますが、やはり一番大事な幼少期に良い教育をするのが最優先だと思う。また、それに携わる人たちのやる気が一番だと思う。そのような交流面のあり方委員会や検討委員会も必要ではないかと思う。

○現地の視察について委託・移設が9園ある長野市へ照会し、適切な園へ視察させていただくのはどうか。

→みなさんのご希望があればあたらせていただく。

○資料3の保育の人件費が上がっているが、なぜ上がっているのかという分析、その理由が何なのかというのを教えていただきたい。先ほど5年後の予測という話があったが、それで言うと保育園に関する経費はどんどん減っていくのではないか。そう思えば、そんなにも民間委託を急にやらなくても良いのではないかと思う。

→第1回目の資料1、児童数の推移にあるとおり、未満時の増加というのが非常に大きい。例えば1歳児についての設置基準では、配置数が1:3なので3人入れば保育士も1人入る。人件費で言うと、年間で250万円程度のものが増えていく、ということである。また、障害があつて何らかの支援が必要な子どもも若干増えてきていることもあり、そういう方々への加配対応が必要になっていることもある。もう一点付け加えれば、ある程度配置基準というものが決まっていて、1クラス30:1にしなければならないという基準がある。例えばそのクラスが、30人から20人に減ったとしても保育士は1人付けておかななくてはいけないので、人口の減少が即経費の方に反映してくるとは考えていない。今後一番難しいところは、未満児は人口としては減少しているが、入所率は非常に上がっている。入所率がどこまで上がっていくのかという見極めが必要になるが、それも含めて分析し、予測をたてていきたいと考えている。

○子どもは、友達が保育園に行くとなると自分も行くというようになる。友達が行くから行きたい、となった時、その器をどうするか。民間の活力を使ってうまくいくのか、それとも公共でやっていくのか議論するのが一番大事じゃないかと思う。良い法人がない場合、民営化ありきで議論していくと、子どもの命に関する問題が発生してしまうのではないかと懸念している。

○資料3で未満児は280人が395人ということで増加しているが、逆に正規職員と非常勤職員の比率は逆転している。資料9の正規職員と非常勤職員の給与には激しく差があるが、この5～6年の間に非常勤職員が非常に増えて、未満児は100人くらい増えている。1億7千5百万円ちかひものが変わってくるということがこの表を見ただけでは非常に疑問である。これも今回諮問されたことの一要因だと思うので、説明をお願いしたい。

→合併当時も非常勤職員はいたが、地方公務員は中曽根総理大臣の頃から行政改革ということで、職員数の削減を求められてきた。行政職員をはじめ、全体の人数の中で考えていくので、保育園についてもどうしても非常勤化をせざるを得なかったという事実はある。合併をしたことでシャッフルされ、早期に退職する職員が想定以上に大勢出た。定員適正化計画も、予想を上回るペースで達成できた。採用については、あらかじめ定年や勲奨等でわかっている職員の分については、それに見合う人数を採用する。ただし、年度途中の退職や年度の後半で退職の申し出があるとその職員の分の補充ができないということになり、不足する分を非常勤職員で充当する。その繰り返しは現在まで比較的続いているという状況である。

○19園の収支で、例えば給食賄いの部分は専門業者がいるから、そこの部分だけでも民営化するのも一つの方法だと思う。子どもは宝だと思う。惜しんではいけない、ただ競争がない事によって会社のように必死にやっていく感覚があるのかというのが、一番問題である。結局なぜ公では出来ないのかを探求し、皆が一致しない限り、我々として答えが出ない。きっかけとして給食部門はプロに任せて一食10円でも安くできる、あるいは安心安全を追求できるといったところから動いていく事も民営化の一つである。給食部門から入ってその他にもできる事、本当にやる事を答申しなければいけないと思う。

○本当にできる事を答申しないといけないと思う。民営化でいい、だけではいけないと思う。

○公でどうしてもできないのか、どこを目指そうとするのか、市の補填はここまでが限界であり、そのためにどうしたらいいのかという話になっていない。もう一点は、競争の良い結果は子供や保護者のところに行かなければならない。この考え方で絶対一致しよう、この事は絶対やろうという答申が出せれば、市の皆さんも真剣に思ってくれる。これからは安心して預けられる、良い子供を育てるには民も官もない。その辺で一致出来てこない、この委員会の意義がなくなってしまう。

○給食は直営か。

→18園全園と今年度から幼稚園も福祉部の担当になったので、28年度から幼稚園も含めて全園委託になる。保育園の関係は平成22年度から委託に出している。園を3つのグループに分けて一つずつ会社に持って頂いている。園長が出た内容等をチェックした後に委託料をお支払いする仕組みになっている。それぞれ衛生管理に努めて頂いており、委託に出したことで問題があった事は一つも聞いていない。

○3点お願いしたい。1点目は、民営化した場合に一般財源ベースでどの程度負担軽減が図られるのか、あるいは図られないのか。前提として、子どもの人数や職員数を明らかにした資料の作成をお願いしたい。職員課長から非常勤職員の話があったが、保育所を担当している部署として非常勤職員で良いのか悪いのか疑問に思うので、その辺の考え方をどうするのかを前提に財政効果を組み立てていただきたい。2点目は、民営化といっても相手がある事なので、どんな業者でも良いという訳にはいかない。かなり格差があると理解しているので、県外でも良いからあまり好ましくなかった民間の事例について情報が分かる資料をお願いしたい。3点目は、この計画ではこども園を中心にするとしているので、これからはこども園を中心に、財政的な組み立てがどうなるのかを踏まえた資料にして頂きたい。

→3点目のこども園についての資料は出来る。1点目は、延長保育を8時までやったり、日曜日もやると費用が掛かるので、委託料が増える。現状において民間に委託した場合で試算したものをまずお示ししたいと思うので、またご指示いただければその後で次の資料については考えて行きたい。

○検討していく中で、例えば運営委託も全部委託もあるだろうし、部分委託という話もあるだろうし、あるいは指定管理とした場合に財政面ではどうなるのか、民間になれば市町村の負担が減る様な事が書かれている、減った場合にその分を別の部分で子どものために使えばいいけれど、本当に負担が減るのか懸念がある。現状が半分以上が非常勤で、民営化した場合に非常勤のまま働かせる様に委託は出来ないと思う。そうするとかえって経費が掛かってしまうのではという疑問があるので、先程お願いしたケース毎に一般財源ベースでの持ち出しがどうなっていくのかが知りたいので、そういう視点で資料を作って頂きたい。

→検討させて頂き作ってみるので、またご指示を頂きたいと思う。

○なぜ民営化という根っここの部分をもっとしっかり議論すべきだろうと思う。まず保護者との話し合いについてはこれからやるのか、民営化が決まってからやるのか、民営化ありきではなく保護者の意向を反映できるように意見を聞いていかなければならないと思う。公立、私立全体の保育環境、サービスについて調整が図っていけるかどうか、さらにすべて民間委託ではなくて公立保育所の果たすべき役割についても踏まえられるかどうか、それから運営コストについて財政視点のみで判断すべきではないと思う。それには先ほど意見があったが、あり方検討委員会等の研究をするべきではないかと思う。

○正規職員の方が急に辞めるから非常勤職員が増えていると説明があったが、例えば結婚してフルタイムで働けないからなのか、難しい子どもさんが増えてきている事に耐えられなくなって辞めていかれるのか、安曇野市として資料のようなものはとられているのか。保育士の離職に歯止めをかけなければいけない。保育士は毎年約3万5千人が離職する。業務日誌の作成など事務負担が重いのが一因で、業務管理ソフトを導入し効率化を図っていかなければと日経新聞に記事があるが、安曇野市ではこういった事が実際にあるのか。また、職員が辞めた場合に、安曇野エリア内に保育士の資格を持った方がどの位いるのか捉えていてお願いできるようになっているのか。

→保育士の退職理由について、だいたいの保育士は結婚、出産及び定年退職等である。もちろん業務は毎日大変な思いでやっているが、それを理由に退職したという例は聞いていない。

○配置基準の話がありましたが、全体の職員数は足りているのか。

→今は非常勤の先生方を入れて頂いて足りている。

→やめた場合に補充ができるかという事だが、マーケットとして把握している分は、各保育士が自分の友達でフリーでいる方くらいしかない。急に辞められると中々補充できないため、代替の保育士にお願いして入って頂く事もある。一度穴が開いてしまうとそこを補充する事はなかなか大変な事である。

○昔は一人の保育士の採用に5～6人の応募があったが、今は探さないといけない。これには2つ理由があり、1つは待機児童が多い首都圏で園舎を作っても保育士がいないと保育ができないので、こちらにいる保育士を好待遇で勧誘するため相場がどんどん上がり、弱小な保育園ではとてもそんな給料は出せないという状況になる。もう1つ民営化とか関係なく一般論として、保育士の給料は安すぎる。月に約10万円違うと言われ、公立はまだ良いが私立はもの凄く厳しい。日本保育協会のデータもあるが、さすがに今の

政権も保育士が確保できないので給料を上げなければいけないとなったが、上げて3%である。10万円という額からいうとほとんど上がっていない。大変厳しいタイトな労働市場である。保育士は責任もあるし、朝早く行ったり夜遅くまでだったり大変である。この給料ではやりたくないと思っても無理はないと思うので、保育の質を高めていかなければならない。将来を支えてくれる子供たちのために良い保育をしていくには保育士の給料を上げなければならぬと思っている。

○先ほどの計画の冊子を作ったという話だが、市も色々な冊子を作って各戸に配布する。先ほどの自治基本条例のアンケートで協働のまちづくりに関して知らない人が半分以上いる結果になっているが、これも協働のまちづくりという冊子を作って各戸に配っている。そうすると各家庭に配ってそれで終わりだという認識はそろそろやめて頂かないとまずいのではと思う。今回の民営化に関して一般市民に対してどういった広報をして周知徹底をしていくのかについて、市として基本的な所から検討して頂きたいと思う。

○民営化した場合の保育士の雇用はどの様に考えているのか、新たに正規の職員を雇うのか、非常勤しか雇わないのかについてはどうするのかお聞きしたい。正規職員は市役所の事務をやればよいとして、非常勤職員全員を市役所で吸収できるのか、新しい会社に雇ってもらうのか雇用問題も大きな課題になると思う。

○現時点では、現場に入っている正規職員が92人、8時間雇用の非常勤職員が200人位の先生に担って頂いている。給食調理もそうだったが、民営化する場合はそちらの会社に採用して頂き、しかも正規職員になって頂きたい。そうすれば今の200人の方たちは、保育は一生懸命やっているけれど園の経営・立案には携わっていないが、新しい園に行けば自分たちでやって頂けるともあると思うので、やる気が向上する面も出てくるかと思っている。ただ金額的には、委託や指定管理なのか決まっていないので、仮に委託とした場合、委託料の中で7時を8時までとするならそれを含めていかないとならない。10年間位は全部費用を負担し、実績や今後の見込を見て先の事を考えて行きたいと思っている。全園を民営化することは今の段階では考えていないので、1～2園を民営化した場合その正規職員には他の園に入って頂く。3割位しかない正規職員の割合を上げていかないと今でも正規職員の負担は大きいし、質の高い保育を目指す中ではやはり責任を持った職員にやって頂かないといけないと行政では思っているので、職がなくなってしまう事ではないとご理解いただきたい。

<次回会議の予定説明>

○まずは園長先生が主任保育士に話を聞くということで良いか。

○18園の園長クラスを集めて頂いて、現場の声をお聞きしたい。

→18園全ての園長との事だが、少ない正規職員の中で保育園を運営しているので、代表者等にして頂ければと思う。また、松本等の私立保育園からこちらの公立保育園に移った先生も居る様なので、もし必要ならそういう方からお話を聞くことができるかと思う。長野市の私立保育園の話もというお話もあったが、園舎を見に行く訳ではないと思うので、実際に携わっている先生方の話が聞けるか確認をさせて頂いて、もし無理なら事務局が話を伺った上で報告させていただく事にもなるかと思う。

○話を聞く際に、非常勤の職員もメンバーに入れていただきたい。

→事務局で、今回は現場の声聞く方向で調整させて頂く事でいかがか。

○今回の意見は多種多様なので、これをまず整理して頂きたい。さもないと論点を絞って深めていくことができないので、その点を事務局にお願いしたい。その後には園長先生方あるいは長野市のお話をお聞きする。長野市にもご都合があるし、3月定例会や人事異動もあるので、非常にタイトな日程になり兼ねないと思う。

○長野市の保育園だが、私たちが見に行くものではないと思う。事務方に尋ねて頂いて、話を伝えてもらえば良い。

○やはり自分の所がどうなっているのか、先に見た方が良い。

○職員や非常勤職員をここに呼んで話を聞く様なやり方では、中々しゃべれない。例えば会長や副会長が事務方と一緒に個別にお話を聞く方が良いと思う。

○市がどうして民営化をこんなに推進したいのかという所は、財政が厳しいからこういう事も考えてほしいということではないかと受け取っているが、民営化のメリット、デメリットが提示されないと委員会でも

民営化への疑問しか出てこないのも、それに対して良いところはどういう所なのかをぜひ出して頂きたい。

次回の日程・・・2月下旬を予定